



皆さんこんにちは！

地域おこし協力隊の渡辺です。

今月の集落支援だよりでは、上谷サロンの様子や福島大学の卒業生との交流事業について紹介します。



地域おこし協力隊 集落支援担当
わたなべ たかひろ
渡辺 貴洋 隊員

上谷サロンに参加

先日、上谷地区のサロンに初めて参加しました。毎月1回、旧上谷分校で行われており、今年初めてのサロンには程窪、泥浮山、長桜の3集落から7人が集まりました。



上谷サロンの皆さん

参加した皆さんとサロンでおなじみの棒体操で体を動かしたり、お茶飲みで和気あいあいと話したり笑顔が絶えない時間となりました。寒い冬の間でも、こうして気の知れた人と顔を合わせて話をする時間があると気持ちも上向きになるような気がします。このような集まりを楽しみにし

ている人も多く、楽しい時間を過ごせることがこのサロンが10年以上も続いている秘訣かもしれません。

また、サロンや人足をはじめ、上谷地区では3集落がお互いに協力し合って活動することがよくあります。以前は、運動会や演芸会などが開かれ、集落の住民同士で協力しながら楽しく参加していたそうです。今では人が少なくなり、そうした活動も徐々にできなくなっていますが、お互い助け合う気持ちは今でも変わらずに残っているように感じました。

福大卒業生による事業

中町自治区では、5年ほど前から県の事業を活用して大学生の受け入れを活発に行っています。しかし、大学卒業後は就職などの理由で集落に足を運ぶ機会が減り、継続的な交流ができずにいました。そのような中、昨年度から県の事業で新たに大学卒業生を対象にした集落活動の募集が



火が灯った雪灯籠



雪灯籠づくりの様子

始まり、福島大学岩崎ゼミの卒業生と現役生が中町自治区を訪れ、集落の皆さんと交流する機会が生まれました。

2年目となる本年度は、卒業生と現役生合わせて5人が参加し、集落を歩きながら家の玄関先に雪灯籠を作って住民の皆さんと交流しました。

集落の人からは、「冬の夜は冷え込みが厳しいため外に出ることはなかったが、明るく灯る雪灯籠や火の揺らぎがとてもきれいだっ」という声がありました。参加者の中には2年続けて参加した人もおり、集落との関係が再度築かれつつあります。年齢も職業も住んでいる場所も違う人たちが、以前関わりのあった場所に集まり活動することができたことや、卒業生のアイデアを集落で形にできたことが嬉しく感じました。

引き続き、このような集落の人と集落外の人とのつながりを大切にしていきたいと考えています。